

防災歳時記 (26)

—消防案内子—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清治

日照りに不作なし

今夏もひたすら暑い日が続いた。東日本は7月1日～2日ごろ、平年より20日も早く梅雨が明けてしまった。記録をとり始めてから最も早い梅雨明けだが、西日本はほぼ平年並みの梅雨明けだった。

早い梅雨明けもあって記録的な猛暑が8月初めまで延々と続いた。

最高気温 35℃以上の日を「酷暑日」と呼ぶことがある。7月の酷暑日の総日数は、東京が7日と過去最多、大阪の8月の酷暑日の総日数は12日もあり、平年の5.7日の約2倍もあった。

7月の平均気温は、例えば埼玉県熊谷市と東京都心でいずれも 28.5℃(平年差はそれぞれプラス 3.5℃と 3.1℃)で過去最高。

熊谷市では観測開始の1897年以降最も高く、台湾の台北市並みの暑さだった。

毎日の最高気温は、7月24日に静岡県佐久間町で 40.2℃、前橋市で 40.0℃を観測し、7年ぶりに 40℃を超える猛暑となった。

あまりの暑さにエアコン、夏物衣料、飲料などの季節商品が売れに売れた。

北日本では、オホーツク海高気圧の影響で7月下旬から低温が続き、観光地や祭りは



写真1 観測する場所（露場：熊谷地方气象台）

入出が低迷し、長引く不況に冷夏が追い打ちをかけた。

東日本では8月は冷夏に様変わりをしたが、西日本は猛暑が続いた。

全国的に雨が少なく、水不足の声が聞かれた。7月の雨量は、伊豆大島で1.5ミリ(平年比0%)、愛知県伊良湖岬で3ミリ(同2%)、長野県諏訪市で9ミリ(同4%)などで、多くの河川で取水制限が行われた。

昔から「日照りに不作なし」「干ばつに不作なし」という。夏の猛暑は、干害をもたらす反面、日照時間が多いので農作物の生育が良く、増収となる。台風の被害があったものの、夏の猛暑で北日本の一部を除き、今年産のコメの作況指数は全国平均で103の「や



写真2 消防案山子（長野県辰野町）

や良」という予想だ(9月15日現在)。

消防案山子が活躍

昨年も豊作であった。昨秋、長野県を旅行した際、同県辰野町郊外で「消防案山子」を見た。放水銃を構えた人形で、襟に「辰野町消防団員」とある。

案山子(かかし)は、竹やわらで作った等身大またはそれより少し小さい人形である。弓矢を持たせたり、ミノやカサをかぶせたりして田畑に立たせ、人がいるように見せかけ、作物を荒らす鳥やけものを防ぐ。

弓矢の代わりに、消防団員の放水で威嚇したほうが効果があるように見える。

近ごろは、案山子のほかに鳴子のような音を発するもの、銀紙や反射テープを利用して光を発して鳥やけものを追い払うものもある。いずれにしても、案山子と豊作の田畑とはよく似合う。

長野地方には、「案山子あげ」という昔か

らの行事がある。秋、収穫が終わると長い間、田畑を守ってくれた案山子を田から引きあげて、家の外庭や土蔵などの清浄なところに祭る。この行事は旧暦10月15日に行い、イネの収穫祭でもある。案山子に感謝し、慰労する。新米をたき、餅をついて、手伝いを招いて祝う。暦の新旧でまちまち行われるので、古くから行事もだんだんわからなくなって、次第に減びてゆくのが寂しい限りである。

案山子あげの日は荒れる

案山子あげの日は、天気が荒れてミゾレが降ったり雪が降ったりすることが多い。

旧暦10月15日ごろといえば、今の暦でいえば11月20日ごろにあたることが多い。長野地方(標高約420m)では、このころが秋から冬に向かう季節の変わり目に当たる。

ちなみに、最近30年(1971~2000年)の長野地方の初雪の平年日は11月20日である。

一般に11月下旬は天気が荒れて遭難事故の起こることが多い。例えば、1954(昭29)年11月28日、富士山7合目で突然大雪崩が発生し、冬山訓練中の大学生ら約40人が雪に押し流されて死者15人をだした。東海道沖を進んで低気圧が発達して、約50センチの大雪が降り、初冬の新雪雪崩を起こした。

また最近では、1994(平成6)年11月26日、北海道十勝連峰で3人のパーティが雪崩に巻き込まれ、2人が意識不明になった。

11月下旬は、低気圧が発達して天気が荒れるから注意したい。